



20歳の職員をお祝い

当JAの職員6人が20歳を迎えました。1月9日(火)にお祝い式がJA秋田なまはげ会館で開かれ、役職員が人生の節目を祝いました。20歳の職員は「失敗を恐れずに新しいことにも挑戦し、日々の業務に励みたい」「昨年は気象災害で農家が大変だったため、対策などを自分から考えて行動したい」などと話し、決意を新たにしました。

佐藤広美組合長は「感謝の気持ちを大切にしながら、毎日を柔軟に過ごしてほしい。今後の人生が順風満帆で喜びに満ちたものになるよう祈っている」と呼び掛けました。

📷 記念品を受け取る20歳の職員



気象災害乗り越え梨が高単価

今年度の果樹部会男鹿支部における梨の販売額が、1億1764万円に上りました。霜害や夏期の気象経過などで出荷量は249.3トンに減少したものの、1ケース当たりの平均単価は前年度比135.6%の4718円を記録。全国的な流通量の減少によって引き合いが強く推移したことで、過去10年間で最高単価となりました。

12月21日(木)に共販実績検討会が開かれ、出荷実績が報告されたほか、中国での火傷病の発生を受けて中国産花粉の今後の取り扱いについても説明されました。

📷 梨の栽培経過を振り返る生産者



新役員選出に向けた代表者協議会

当JA役員の任期が今年で満了を迎えることに伴い、6月にかけて役員の選任が行われます。

1月11日(木)、総代協議会と支部長・営農組合長会の代表者協議会がJA秋田なまはげ会館で行われました。組合員の声や地域の実情をより適切にJAの運営へ反映できるように、役員推薦委員や役員候補者の選出方法などを確認しました。今後は各地区および区域で当JA役員に相応しい役員候補者が協議され、6月下旬に開催予定の第7回通常総代会に役員選任議案が附議されて新役員が決定します。

📷 新役員の選任までの流れを確かめました



蔵開きで五穀豊穰などを祈願

1月11日(木)、令和6年の蔵開きが豊岩低温倉庫で行われ、佐藤広美組合長ら19人が参加しました。

倉庫前には米や神酒などが供えられた神棚が設けられ、今年産の農産物の豊作や農業所得の増大、農作業や集出荷業務の安全などに繋がる年になるように手を合わせて祈りました。

佐藤組合長は「昨年の過酷な気象経過は、農産物の品質や農業所得に大きな影響を及ぼした。今年はその農産物が豊作となり、全倉庫業務が円滑かつ安全に進むよう願っている」と話しました。

📷 今年産の豊作や作業の安全を願う役職員